

練稲Press

No.005

盛りあげよう!! 第11回ニューイヤーコンサート

大学の125周年にあたる2007年1月にスタートした早稲田大学交響楽団の第1回コンサートから、来年で早くも第11回目を数えることとなりました。

「大学に貢献する、地域社会の文化に少しでも貢献する、当会の今後の発展の礎にする」という当初の目的は、会員各位のご支援により11回を迎えています。充実してきたといえます。

これを推進する体制も一新され、リーダーに栗原英明、メンバーに田辺攻、一杉則夫、西山隆司、平田慎一郎、越智慎二郎、三宅成嘉さん。



リーダーの栗原さん

それぞれ現役時代のキャリアやスキルを活かすことのできる7人の侍で、最強の顔ぶれといえます。

10月からこのメンバーを中心に、延べ50名の皆さんが事務所に集まり、練稲会員、過去の来場者、練馬在住のOBの皆さんに約4800通を発送し、諸準備は着々と進んでいます。

チケット販売も順調に推移しており、もう一步で完売も見えてきます。どうかお早めにご準備ください。

第11回は、曾我大介さんの指揮により、第一部は「セヴィリアの理髪師」「フィガロの結婚」などのおなじみの歌劇を中心に展開。二期会の高橋維、

吉川健一さんが出演。第二部は新年にふさわしく「皇帝円舞曲」「マリンバ協奏曲」などワルツが華麗に演奏されます。新春の一夜をお楽しみください。

なお、例年通り売上金の一部を「練馬区緑を育む基金(葉っぱい基金)」に寄付をすることになっています。

特報!! このコンサートの模様がJ:COMの11チャンネルで2時間枠で放映されます。2月中旬～下旬の週末の予定。荻野会長のお力添えで実現しました。

(文:鈴木 奎三郎/写真:岡田 吉郎)



第10回ニューイヤーコンサート(シュテハン・ドールさん+ワセ・オケの実演)

「練稲未来塾」いよいよスタート!!

従来のサークル活動とは違った視点で、会のさらなる活性化を意図し、10月から3つの学習塾がスタートしました。誰でも参加できるワンコインで楽しめる講座形式のカルチャーセンターで、歴史、文化、芸術、暮らしの知識、スポーツから科学までさまざまなことが学べる教室です。ぜひお気軽に講座に参加して、勉強しながらお仲間のネットワークを増やしてください。若手会員大歓迎です。

講師はいずれも当会会員のみなさんです。3人の講師は、かつての仕事や趣味を通して培った専門的なスキルや知見をお持ちです。

●八巻孝夫さんによる「歴史講座」

その一つは、歴史講座です。講師は少年時代から歴史に興味を持ち城郭の研究に熱心に取り組んできた八巻孝夫さんです。その第1回目が10月22日ココネリであり、日本の城郭の美しさをテーマとした話にみなさんが熱心に聞きいっていました。



八巻 孝夫さん

また11月12日には第2回を開催しました。来年も新しいテーマの講演会を予定しています。

●小林大輔さんによる「ほのぼの朗読教室」

二つ目は、かつてフジテレビの「夜のヒットスタジオ」などで人気を博したアナウンサーの小林大輔さんによる「ほのぼの朗読教室」です。朗読のプロとして10年超の実績があり、朗読を通して名作に触れながら教養と知見を深めることができます。2017年1月から、毎月第4金曜日の開催を予定しています。会場は豊玉リサイクルセンター。



小林 大輔さん

●野原茂樹さんによる「読書会」

三つ目は、読書会のスタートです。講師は「使ってみたい武士の日本語」などの著書がある作家の野火迅（野原茂樹）さんです。山本周五郎、藤沢周平、司馬遼太郎、吉村昭などの傑作



野原 茂樹さん

練稲未来塾第一回講演会開催のお知らせ



犬山城

講師 八巻孝夫練馬稲門会歴史ウォーキング部長

シリーズ「日本の城の謎を解く」①天守閣はなぜ美しいか?

10月22日(土) 18時15分開演(18時開場) ココネリ研修室3

シリーズ「日本の城の謎を解く」②石垣と堀は城の生命

11月12日(土) 14時30分開演(14時開場) ココネリ研修室2西側

*ココネリ <http://coconeri.jp/>

*参加費は各500円(講演会後に懇親会予定3000円程度実費精算)

練稲未来塾のトップバッターとして、日本の城をテーマに二回シリーズでやさしくわかりやすくお話しします。第一回は城のシンボル「天守閣」です。城といえば誰でも天守閣を思い浮かべますが、その建物がなぜできたか、どのような構造をしているか、なぜ美しく飾ったかなどについて興味深く解き明かしたいと考えています。この話を聞けば、旅先での城の見学が楽しく面白くなること請け合いです。

二回目はちょっと地味な存在ですが、堀(水堀と空堀)、石垣について語ります。この堀と石垣は城になくてはならぬ存在で、これがないと城が機能しなくなるという、最も城にとって重要なものの一つですが、それを知っている人はほとんどいません。それがなぜなのか、その秘密を解き明かします。

ご家族やご友人とお誘い合わせのうえ是非講演会に参加ください。

参加希望者は練馬稲門会事務局までFAXまたはメールにてご連絡ください。定員に達した時点で締め切らせていただきます。

講師経歴

八巻孝夫(昭和23年生まれ)

昭和45年 早稲田大学法学部卒

同年 小学館入社(平成24年退社)

現在 中世城郭研究会代表

練馬稲門会歴史ウォーキング部長



2017年1月~

練馬未来塾主催

ほのぼの朗読教室スタート!!

ハートのある、最高の朗読が学べます。

若々しい声は健康の証!
あなたも朗読でボランティアをしませんか?

練馬未来塾主催の朗読教室、
「ほのぼの朗読教室」が
来年、2017年1月から始まります。

授業料 500円
(当日支払い・入会金なし)



時代小説、歴史小説などを取り上げ、本の周辺やその時代、作家のことなどを語り合い読書の楽しみを深めるものです。第1回は2017年1月18日、以降年4回を予定。

※ ※

これからも新しい塾を検討していきますが、塾の企画運営に参加していただけるかたを募集しています。申し込みは事務局まで。

私のワセダのころ

岡本 龍蔵



私が入学した頃の学院は馬場下町にあった。今は文学部だ。木造平屋の老朽兵舎風だった。一段下の記念会堂一帯は運動場で、小掛選手らが黙々と練習していた。

入学すると卓球部に入った。体育館(前野書店近く)の卓球場は大学と一緒だった。海老茶の卓球着に着替えると、国立第二病院、若松町と走って来てから練習をした。(練稲会の鶴島さんは早大卓球部元会長の大御所)1学年上に明石・高柳さんがいて、東京代表になり国体で準備勝した。その後私はテニスに転向したが、2年前に中村橋の卓球クラブに再入門した。その相川代表(日大卓球部OB)は、明石・高柳組をよく覚えていて、「敵わなかった……」と昔に目を細めた。何ともうれしかった。2年目の9月に学院は上石神

井へ移転した。式典では大浜信泉総長と榎山欽四郎学院長(榎山文枝の父)が台上上がった。哲学者榎山学院長の話の方がうまかった。石神井公園の自宅から自転車で5分の距離になった。大学は金属工学科に進み物研究所で過ごした。木曜日

がキュボラの溶解実験日で、コークス煙と熱湯で真っ黒になり銭湯に行った。銭湯では鑄研さんと呼ばれ常連だった。その頃、父が石神井の自宅庭にテニスコートを造った。父は横浜国大庭球部OBで後援会長をしていた。消耗品のボールの寄付が主な役割のようだった。テニスは家族だけでは足りず、

当時は数少ないテニス心得者(栄久庵さんがいた)に来てもらった。鑄研仲間も来た。テニスを終えて、狭山スキー場の土曜オルナイトで朝まで滑り、傷だらけで授業に現れた猛者もいた。登山ブームも来て、私は社会人中心の「七峰山岳会」に入会した。夏の北アルプス縦走のとき、徳沢付近で整然と下山してきた早大山岳部とすれ違った。

学院同期の沢田君が混じっていた。彼とはそれが最後になった。昭和35年11月、早大山岳部は富士山5合目の冬山訓練中に大規模雪崩に遭った。山岳部史に残るいたましい大遭難だった。卒業後は第二精工舎(現セ

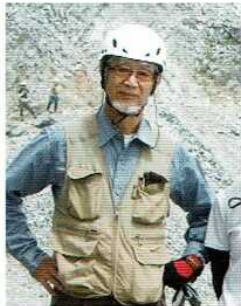
私と早稲田大学とのかわり

喜々津 和夫

イコーインスツル)に入り、腕時計の開発、製造に携わった。定年後は縁あって理工総研に奉職した。大学に授業料は払ったが、大学から給料を貰おうとは思っていなかった。(S37・理工)



5歳の時の筆者



最近の筆者(槍ヶ岳にて)

大学バスケット部のマネージャが住んでいた。我が家には姉五人がいたせいか、バスケット部の選手たちがしょっちゅう家に入入りして、六大学の校歌や応援歌と一緒に歌ったことをおぼろげながら覚えている。皆背が高く、とてもかっこ良い人達だったとの印象が強い。

私は岩手県釜石市で八人兄弟の末っ子として生まれた。終戦の年に生まれたせいかわ、私の小学校入学前の写真は僅か五枚しか無い。その貴重な写真の一枚が五歳の時の早稲田の角帽をかぶった写真である。東京の原宿に住んでいた時、隣の人が撮ってくれたものよ

席しなかった。大勢の別れを惜しむ人達がいたのに、今思えば残念なことをした。

高校では道具もないのに、部員二名の器械体操部を創りマツト運動と跳び箱に親しんでいた。本格的な体操をやりたいと思い、入学と同時に体操部に入部し初めて正規の体操器具に触れることが出来た。体育局関係の入学式は大隈講堂で開催され、全員制服制帽で出席した。誠に厳かな式典で早稲田に入学したとの実感が沸いた。

出身の高校の友人・先輩も一人もおらず、又、西大久保のキャンパスには同学年の女性は三人だけで、華やかさも無く、語学クラス内の八割が一、二歳以上の年上ばかり。急に別世界に放り出された感じで不安だらけであった。

しかし春の早慶戦で肩を組み「早稲田の栄光」を歌った仲間と友達となり、その後の大学生活を実に楽しいものにする事ができた。

卒業後五十年の今も、子供・孫も含めて家族同士の付き合いが続いている。小さいころからの親しみのある大学で学ぶことが出来、何よりも良い友に巡り合えたことが一番だと思っている。(S43・理工)

シーハイル(スキー万歳)

田辺 攻まさ



1964年に憧れの早稲田大学に入学したが、西早稲田に移転後の理工学部キャンパスは、コンクリートむき出しの建物に囲まれ、女子学生の割合は1%にも満たず、大学というより工場の雰囲気漂っていた。

大学生活に何となく物足りなさを感じ他の学部の人達とも付き合いたいと思い、色んなサークルの説明を聞いて歩き、最後に選んだのがモンブランスキークラブであった。新潟生まれでスキーは多少の経験があったが、当時はトニーザイラーの「黒い稲妻」や加山雄三の「若大将シリーズ」の映画がヒットし、自分もスキーが上手くなって女性にもてたいというのが主な動機だった。

まだ1年前に設立されたクラブで、部員は30数名と少ないものの3分の1は女子部員が占め、学生会館にあった部室は自由闊

達な雰囲気溢れていた。入部して早速取り組みさせたのが、部活の資金を得るためのダンパのチケット販売であった。ハイソやナレオの演奏で、サンケイホールや目黒パークレインで開いたパーティは大盛況となり、この収益金で団旗を作りユニフォームも揃えることができた。

冬の合宿は志賀高原や岩岳などで3回に分けて実施され、延べ10日間以上に及んだ。ゲレンデスキーが主で、技術レベルを基に3〜4チームに分かれて滑る。練習の締めは、全員で円陣を組んで「モンブラン・シーハイル」を連呼するのが恒例だった。おかげで入部したシーズン最後には、私も希望のスキー1級の認定試験に合格することができた。

大学4年の早稲田祭では、プロスキーヤーの三浦雄一郎氏を呼んで、大隈講堂で講演会を開催し、文学部の教室の中に狭山スキー場から借りたプラスチック素材で特設のスキー場を開設した。講演会は満員となり、教室内スキー場は週刊誌が写真入りで紹介し、クラブの存在が学

内で大きく注目された年でもあった。

あれから50年経つが、モンブランスキークラブは今でも存続し、OB・OGと現役との交流会が3年毎に開催されている。今年10月に開かれたその会では、現役学生が「NEXT50」のスローガンを掲げ、我々を歓迎してくれたが、感慨深いものがあった。

30年振りに見たもの

田代 昭子



20歳、早稲田祭にて

予期せぬ事から、卒業以来の東京に移り住むことになったのは、50歳もとづくに過ぎたことだった。大学時代4年間の思い出の詰まった場所も、長い空白の前に不安ばかりが募る。

何よりも今更、ふるさとの地を離れることに……。

最初にそれを杞憂に終らせただのが、手を広げ迎えてくれた旧友達。さすがに互いの変化に一瞬は戸惑うけれど、何と！(あくら、不思議)どの顔もみ

60代半ばでリタイアしてからは、又昔の仲間とスキーを楽しむ機会が増えていく。北海道の主なスキー場はほぼ制覇し、ここ数年はフィンランドやアラスカまで遠征し、スキー&オーロラツアーを楽しんでいる。生涯スキーを楽しむきっかけを作ってくれた早稲田大学には今でも感謝している。

(S43・理工)

るみる時間の壁を越え、あの若き日に戻っていく。通い合う気持も少しも変わらずに。これを「同窓会マジック」というらしい。

尋ねたのは、秋も深まった母校。とりわけ、(当時サークルの部室と隣り合せだった)演劇博物館に続く銀杏並木は懐かしい。無邪気に通い続けた道は、真つ盛りの黄金色。

そして大隈講堂の時計台は、是まで何事もなかったかのよう静かに時を刻んでいた。あれは2年生のこの時期だ。

長かった早大紛争も夏にはやっと終息し、休講も上乘せした授業が一挙に始っていた。連日遅くなり夜の帳の校庭に琥珀

色に浮ぶ「文字盤」が、心細い我々を見守ってくれている気がしたものだ。

今でも仰ぎ見ていると、折々の校友のさざめきが、遠く聞こえるようだ。

30余年の歳月は確実に、街人も大きく変えていたのに、何故かその時の私には、何もかも同じに思われ、同時に其れまでは然して意識になかった母校への思い入れの始りだった。

そして稲門会。それにしても全く初対面のはずの校友の方々に、このいきなりの信頼、懐かしさは一体何なんだろう。

その昔同じ学び舎を飛び立つた我々。それぞれ戦った戦場や時期は違っても、今又こうして同じ「庭」に集まっている。「お互いに頑張り、よく帰って来たよね。」と同じ胎からだこそ分かち合えるねざらいや安堵感、そんなものを貰っているのかもしれない。齢を重ねるといふことも、そう悪いことばかりではなさそうだ。

都の西北に、毅然と佇みながらも、何ときも変わらぬ温もりで包んでくれる母校がある。

もう大丈夫。そこに「早稲田」がある限り、ここ東京は紛れもなく私の「ふるさと」。

(S44・教育)

釣り愛好会 年間5~6回の正式例会とオフ会など、「自然」に親しむ会へ!

釣りは、独りでも仲間と一緒に、また半日でも終日でも、都合のつく時間内で行なうことが可能な、柔軟性に富んだ楽しい遊びです。しかし、スマホゲームのようなバーチャル世界での遊びではなく、現実世界で、しかも魚という生ある物の命を弄ぶという因業な道楽でもあることを肝に銘じ、かつ、自然環境に晒されての野外活動ですので、場合によっては、釣り人自身の生命の危険さえも内包するものであることも忘れてはなりません。

また、苟も稲門会の名前を冠したサークルですので、釣技の程はさておきましても、

- ・釣り場を汚さない
- ・魚は大切に扱ってあげる
- ・釣り人同士のマナーを守る

等、教養ある釣り人としての基本だけは、他人から後ろ指をさされることなく、逆に世の釣り人の範となるようなサークルにしたいと念じております。

さらに、町のオジさん達の釣り会ではないので、単純に、釣れた釣れたで喜び、釣れなかったでガッカリするだけの集まりではなく、インテリジェンスと探究心のある釣り人としての姿勢を持ったサークルに育てて欲しいと願っております。

正式例会では、誰でも気軽に参加できるカサゴ、アジ、シロギス、イシモチ等の釣り物を対象として年間5~6回を企画し、またオフ会釣行では、会員同士のレベルに応じた多様な魚種に挑戦します。

これは、海の船釣りに限らず、清流の釣りであったり、小川のタナゴ釣りや野池の小鯛釣りであってもよいのです。そして、釣りのついでに山菜採りをしたり、河原でBBQしたりと、総合的に自然に親しむ会を皆様と一緒に作り上げていきたいと思っています。

この9月に部長に就任したばかりですが、宜しくお願い致します。

(部長・松浦 康夫)



フォークソング愛好会 本年9月に発足した新しい会です!

フォークソング愛好会は、古くから親しまれてきたアメリカン・フォークソングやカントリー・ソングなどの曲を合唱して歌を楽しむことを目的として本年9月に発足した新しい会です。

毎月一回の例会(練習会)で、都度新しい曲を取り入れながら11月までで3回の例会を開催しレパートリーも7曲になりました。7曲の曲名は、峠の我が家、カントリーロード、聖者の行進、思ひ出のグリーングラス、いちご白書をもう一度、トップオブザワールド(英語歌詞)、風に吹かれて(英語歌詞)であり、始めの3曲以外は愛好会メンバーのリクエストにより取り入れた曲です。

練習は、フォークバンド Dreamers のメンバーである、貞末俊一さんの編集作成による歌詞譜面をもとに、貞末さんの歌唱指導とギター伴奏で繰り返し全員で歌唱しながら進めてきました。また、ギター伴奏を吹き込んだCDを全員に配布し各自が自宅で練習ができるようにしています。全員で歌う他に、例えば、いちご白書をもう一度、では、高音部(女性)、メロディー部、低音部(男性)と3つのパートに分かれて歌い、風に吹かれて、では1から4小節までは2小節ずつをそれぞれの小節を受け持つ各人が独唱し、終わりの2小節を全員で合唱するなど、いろいろな歌い方も取り入れて練習しています。12月からの4回目以降はしばらくの間、この7曲を集中的に練習し、来年のいずれかの機会に稲門会の皆様の前で練習の成果を披露できるようになれば良いなと期待しています。

愛好会のメンバー数は現在約20名ほどであり、毎回の参加者は15名前後、そのうち女性の会員は6名です。2時間の練習後は、各自が持ち寄った酒類やつまみで歓談し練習の疲れを癒し、親睦をはかっています。来年1月の例会では終了後新年会開催を予定しています。いままであまり機会がなく歌う事に慣れていない方、譜面を読むのが苦手な方でも、また、途中からの参加でも、合唱形式なのでしばらく一緒に歌っていればすぐに歌えるようになります。フォークソングが好きな皆様の随時のご参加をお待ちしております。

(部長・河野 省三)



サークル活動でより楽しい練稲ライフを!!

2016年10月現在、20のサークルがそれぞれ活発な活動を行っています。お好きなサークルを探して、交友の輪をさらに広げてください。

●各サークル連絡表

2016年10月現在(事務局:作成)

	サークル	部長	卒年	連絡先(Tel)	開催予定日
1	ゴルフ部会	戸津川 隆	S39	3921-0834	毎月(日は未定、7、8、12、1、2月休会)、早慶戦(年1回)5月
2	歴史ウォーキング部会	八巻 孝夫	S45	3997-5703	七福神巡り他、年6回程度(3月~5月、9月~11月) 夏冬休み
3	旅行部会	藤沢 礎	S49	3867-2210	年間3回程度
4	マージャン部会	喜々津和夫	S43	3991-7085	奇数月の最終土曜日、年2回早慶戦、年2回近隣会、年1回熱海泊
5	囲碁部会	築山 哲	S41	6760-9579	毎月第3土曜日、年1回湯ヶ原泊、春・秋豊島対抗戦
6	グルメ会	持ち回り		事務局 3994-8212	年2回程度
7	テニス部会(硬式)	菊田 勉	S44	3310-3900	毎月1回(日は未定)、夏合宿(軽井沢泊)
8	エッセイ同好会	照山 忠利	S45	5387-5176	偶数月(第3土曜日)
9	ワセダスポーツを楽しむ会	小島 忠夫	S41	3929-9383	箱根駅伝・野球早慶戦・早明ラグビー・早慶レガッタ
10	カラオケ部会	土屋 正孝	S45	3929-9227	毎月(第3月曜日)4:00~7:00
11	山歩き会	関口 嗣男	S39	3922-6859	毎月1回・第1木曜日定例会
12	写真クラブ	岡田 吉郎	S35	0424-52-9381	毎月第3水曜日
13	パソコン教室	築山 哲	S41	6760-9579	毎週木曜日(PM1:00~3:00)
14	ティータイムコンサート	土田 寿久	S42	3995-1227	3カ月に1回程度(歌・落語・等)
15	酒楽会	森 正治	S46	090-4361-6656	月末の最後の木曜日(年5回)(午後5:00~7:00)
16	釣り愛好会	松浦 康夫	S48	3904-2455	年4回
17	青年部会	小野 惣一	S60	6914-7681	年3~4回開催予定
18	料理を楽しむ会	仲山 典美	S40	3994-8665	2カ月に1回
19	陶芸を楽しむ会	田原 亜彦	S38	3929-7063	毎月第1月曜日
20	フォークソング愛好会	河野 省三	S41	6914-5016	月1回(2時間程度)

ぜひご覧ください!! ホームページ

開設11年になるHP。ここには当会の最新の活動がすべて集約されています。

「練稲 PRESS」と併せてご覧ください。

<http://nerima.waseda-info.com/>

編集・発行: 広報・ICTチーム

鈴木奎三郎 山田興太郎 照山忠利 岡田吉郎 平田慎一郎 築山 哲 小澤由喜雄

発行所: 〒176-0014 練馬区豊玉南3-6-2 第2春日ビル2F 練馬稲門会事務局 TEL.03(3994)8212 FAX.03(3994)8219